ACTIVITIES OF SDGs

ドトール・日レスホールディングスの活動

従来のお客様・株主・社員・地域社会への貢献に加え、SDGsを経営に組み入れ、企業収益を高めると同時に社会や地球環境の改善につながるよう構築してまいります。

地域や地球の持続性

～ 環境負荷低減、地域社会への貢献 ～

食品ロス削減対策

日本では食べられるのに廃棄される食品が年間600万トンにのぼると推計されています。サンメリーや石窯パン工房の各店では、少しでも食品ロスを減らそうと、さまざまな取り組みを行っています。サンドイッチ用にカットした食パンの耳を廃棄せず安価で販売したり、フランスパンを日持ちのするラスクに加工したり、夕方にはタイムサービス割引やお得な袋詰めセット販売をする等、お客様に喜んでいただきつつ食品ロスを削減する努力をしています。
また、D&Nコンフェクショナリーでも食品ロスを減らそうとする取り組みを行っています。東京都江東区にある辰己工場に隣接する「東京リバーサイドスイーツ」では、製造過程で少し型崩れしてしまったケーキなどの各種スイーツをアウトレット価格で販売しています。味はお墨付きということもあり、近隣住民の皆さんに親しまれています。不定期営業のため、公式Twitterで随時情報発信しています。

「TABETE」の導入

エクセルシオール カフェでは、充実したラインナップでお客様に商品を選ぶ楽しさを提供する一方で、店内で調理するサンドイッチ類などは翌日に持ち越すことができず、やむなく廃棄せざるを得ない場合があります。また、配送時や陳列時に割れてしまったり、賞味期限が理由で販売できない焼き菓子など、まだ食べられるのに捨ててしまうのは“もったいない”店舗での食品廃棄に課題を抱えていました。
こうした想いに共感されるお客様と店舗をアプリを通じてマッチングするフードシェアリングサービスである「TABETE（タベテ）」の趣旨に賛同し、都内のエクセルシオールカフェの直営店で導入しています。現在は、グループ業態であるAUX BACCHANALES（オーバカナル）も加わり、一歩一歩着実に取り組みを推進しています。ドトール・日レスホールディングスは、店舗での食品ロス対策に取り組むことで、お客様とともにサステナブルな社会の実現を目指していきます。

フードバンク支援

厚生労働省の調査によると、いま日本では7人に1人の子どもが貧困状態にあり、特にひとり親世帯では約半数が貧困に苦しんでいると言われています。一方で、年間600万トン（農林水産省・環境省推計）の食べられる食品が廃棄されており、焼却処分時のCO_2排出など環境面への負荷も大きな社会問題となっています。
ドトールグループにおいても、メニューの切り替え時や商品の販売動向などから、やむを得ず余剰となる食材や調味料を廃棄せざるを得ない状況にありました。
この「食品ロス」と「貧困」という2つの問題解決に取り組む、「特定非営利活動法人フードバンクTAMA」の理念と活動に賛同し、ドトールグループにて発生する余剰食材を定期的に寄付しています。

割引販売の導入

ドトールコーヒーショップ全店とエクセルシオール カフェのFC店では、2021年11月より一部商品の割引販売を導入しています。対象商品は当日に消費期限を迎えるデニッシュ、焼き菓子、サンドイッチ等の袋詰め商品で、割引販売の実施の有無は各店舗の判断に委ねています。開始時間や割引率（10%・20%・30%の3種類）は、当日の販売状況によっても異なります。まだ食べられるものをできるだけ廃棄させない施策を本部として用意し、地道にフードロス削減に貢献していきます。

食品資源の有効活用

自然食品F&Fや食のSELECTネットショップ安心堂で人気の「絶品豆腐」。その豆腐の製造過程で発生するおからやサンメリー、D&Nコンフェクショナリーの工場で発生するパンやケーキの切れ端等を肥料としてリサイクルしています。食品循環資源の有効活用は環境保全につながり、廃棄処理費の低減にもなることから、今後ともリサイクルを推進していきます。

廃油をリサイクル

ホールディングス傘下のレストラン業態の店舗では、毎日多くの揚げ油を使用します。その使用済みの食用油を回収し、工業用石鹸や家畜などの飼料、肥料の原料へとリサイクルする活動に取り組んでいます。2020年度は237店舗で実施し、セントラルキッチンと合わせて約6.2万キログラムの廃油がリサイクルされました。

店内飲食の陶磁器・グラス提供

ドトールコーヒーショップでは創業時より陶器・グラスによる提供を行ってきました。使い捨てのプラスチック容器を使用していないことによるCO_2削減量は過去8年間の年間平均で9,526トン、東京ドーム543個分にもなります。累計では76,208トン、東京ドーム4,344個分に相当しています。

環境配慮資材への切り替え

地球温暖化や大気汚染によって地球上の森林が年々減少している現在、適切な森林管理を行う森林業者や地域を支援し、世界全体の森林保全に貢献する「認証製品」が注目されています。認証製品が消費者の手に届くまでには、最終製品になるまでの生産、加工、流通に関わるすべての組織が認証を受けなくてはなりません。
現在ドトールグループでは、認証紙の採用率を消費重量で80%以上にすることを目標に取り組んでいます。特に消費量の多いおしぼり、紙ナプキン、紙袋から着手し、従来プラスチック製だったテイクアウト用のマドラーやアイスドリンクカップ（一部）も、認証紙製に切り替えています。他にテイクアウト用のカトラリーもバイオマスプラスチック製に変更するなど、環境に配慮した消耗資材を採用しています。
またコンビニエンスストアやスーパーで販売しているチルドカップの一部製品では、バイオマスストロー、バイオマスインキの使用、アルミ蓋薄肉化の適用により、プラスチックやアルミごみ、CO_2排出量削減に貢献しています。チルド飲料はプラスチック容器が一般的ですが、一部製品で紙容器を採用。紙を使用したパッケージに関しては、認証紙への切り替えなどを順次進めています。開発・製造に関わる環境が変化するなかでも、風味をはじめとした品質の検証は欠かさず、味覚へのこだわりを大事にしながら、社会に貢献できる製品づくりを続けています。

工場の環境保護への取り組み

ドトールコーヒーの焙煎工場では製造工程において、環境保護を促進する機器の設置や省エネ、リサイクル活動など、環境に配慮したさまざまな取り組みを行っています。ここでは、その中の代表的なものをご紹介します。

麻袋のリサイクル

コーヒー生豆は一部の生産国を除き、麻の袋（麻袋）で輸入しています。当社では年間約10,000トンの豆を使用しています。そのため麻袋の量も多いことから、一部の麻袋は固形燃料の材料としてリサイクルしています。

脱臭装置の設置

コーヒーの香りが苦手な方への配慮から、脱臭装置を設置しています。焙煎時に発生する煙や臭いは白金触媒を使って再燃焼し、分解した後に屋上の煙突から排出することで、臭いの低減と無色化を実現しています。

コーヒー粘土の誕生

株式会社Gakkenと協業し、コーヒーと子ども達が大好きな粘土のコラボレーションが実現。コーヒーの香り豊かなコーヒー粘土が誕生しました。この粘土は、全国の幼稚園、保育所、こども園向けの教材として、2022年４月より販売されました。コーヒー豆を粉砕する際にチャフと呼ばれる薄皮と微粉が発生します。本来廃棄されるチャフは、近年堆肥や肥料などにリサイクルしていますが、粘土の材料に使用することで、知育に貢献できるエコロジーなアイテムにアップサイクルしました。
コーヒー粘土を通じて、子ども達がより一層リサイクルやコーヒーという飲み物に、興味関心を持つきっかけになることを願っています。

CO_2削減対策

店舗のサイン看板や店内照明にLEDを導入

ドトールコーヒーの店舗、オフィス、工場では、時代に合わせた省エネ対策を行ってきました。店舗とオフィスでは、空調やコンベアトースターを新装することで節電を実施。さらに店舗のサイン看板や店内照明にCO_2削減に効果的なLED照明器具を導入することで、省エネを実現した店舗設計を推進しています。

コンベアトースター

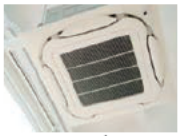
旧マシン	新マシン
1日あたりの消費電力	
50.4kw	23.0kw

54%削減

照明器具

2000年代後半まで ハロゲン球/クリプトン球	2000年代後半から 蛍光灯	2010年代 LED
1灯あたりのおよその消費電力		
30～100W	10～50W	5～13W

空調機

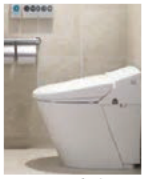
2000年頃まで ノンインバータ空調がメイン	2010年頃 インバータ空調がメインに	2020年 インバーター空調
		
5馬力3.7kw1台当たりの年間消費電力		
6,090kwh	3,432kwh	2,620kwh

44%削減　57%削減

節水対策

店舗のトイレを段階的に新装することで着実に節水を実現しています。また厨房の蛇口に最大80%の節水が可能になるノズルを設置。水圧と空気を利用して水泡を放出する特殊機能で、洗浄力を落とすことなく水道使用量の削減に貢献しています。

トイレ

2000年頃まで ロータンク式	2000年代 タンクレスの登場	2010年代 タンクレス
		
流水量(大)		
8～13ℓ	5～8ℓ	3.8～5ℓ

環境にやさしい店づくり

ドトールコーヒーショップやエクセルシオール カフェの一部店舗では、地球や公園をテーマに環境配慮型の店づくりを進めています。店舗で使用した抽出後のコーヒー粉とコルクを混ぜ合わせた100%天然植物由来のエコ素材をテーブル什器に採用したり、廃棄衣料を原料とする循環型繊維リサイクルボードを厨房カウンターや客席カウンターに採用するなど、廃材や古材を有効活用しています。また、資材メーカーで廃盤となったクロスやタイルを採用するなど、サプライチェーン全体での廃棄削減にも取り組んでいます。

実質再生可能エネルギーの導入

2022年12月から、洋麺屋五右衛門、星乃珈琲店、およびサンメリー約120店舗にて、しろくま電力（ぱわー）による実質再生可能エネルギー100%の電力を使用しています。これによりCO_2排出量を年間約6,380t※削減することになり、順次導入店舗を拡大しています。

※東京電力エナジーパートナー株式会社のCO_2排出係数をもとに算出。

社会貢献活動

全国に展開する店舗での募金活動を通じ、
これまでに総額2億4,470万円を寄付してきました。

募金活動の始まり

創業者の鳥羽博道が、ある主婦がカンボジアに学校を作るボランティア活動を紹介したTV番組をみて、店舗での取り組みを呼びかけました。

募金活動 実績（2000年～2011年）

「ドト　ルありがとう募金」：小学校23校舎を寄付

東日本大震災・津波義援金

期間　：2011年3月16日～2012年2月29日
寄付先：日本赤十字社
義援金：1億145万円
※ドト　ルコ　ヒ　ショップ、エクセルシオ　ル カフェ、洋麺屋五右衛門、石窯パン工房サンメリ　各業態約1,900店で実施

東日本大震災・津波遺児支援

期間　：2012年4月1日～2014年3月20日
寄付先：あしなが育英会
義援金：1,300万円
※ドト　ルコ　ヒ　ショップ
目的　：1. 子供たちが利用する「レインボ　ハウス」建築
　　2. 子供たちの心を癒す活動支援

福島県への物資・人的支援

期間　　：2011年7月～2012年11月（計7回）
物資支援：ドリップカフェ、リキッドアイス
人的支援：各種イベントの実施
　　1.カフェ、ケ　キの提供
　　2.フラワ　教室の開催
　　3.ケ　キ教室の開催

その他

・復興支援としての社員旅行訪問
・大雨・台風災害地への義援金

地域貢献活動

写真提供：足立よみうり新聞

ドトールコーヒーショップでは各店舗が拠点となり、地域の方のニーズやご要望に応えたコーヒー教室やお仕事体験等を開催しています。

1 各店舗を軸に展開するコーヒー教室

ドトールコーヒーの社員が講師となってコーヒー教室を開催し、コーヒーの魅力や自宅でも楽しめる抽出のポイントをお伝えしています。地域のコミュニケーションの場としての側面も備えています。

2 教育機関・福祉施設を対象にしたコーヒー教室・お仕事体験

中学生に向けたお仕事体験では、コーヒーの魅力や自宅でも楽しめる抽出のポイントとともに、コーヒーの生産、流通、販売の仕組みをお伝えすることで、仕事に対する考えや自身の未来を考えるきっかけを提供しています。

抽出後のコーヒー粉リサイクル

チルドカップコーヒーを製造する時に、ごみとして大量に排出される抽出後のコーヒー粉の一部を再利用して、堆肥にする取り組みを製造委託先と共に実施しています。抽出後のコーヒー粉を発酵させて堆肥化し、日本最大級のお茶の生産地・静岡県にある、にしたな株式会社と提携して、「やぶきた茶」という品種の茶葉を育てています。コーヒー堆肥を利用した試験栽培では、養分吸収率の高い細根が増加する研究結果が得られています。

抽出後のコーヒー粉は、他にもたくさんの可能性を秘めています。「おいしい」だけで終わらない、未来につながる活動として、コーヒー会社にできることを考えていきます。